

令和7年度農林水産省行政事業レビュー公開プロセスの結果
新規就農者育成総合対策のうち誘致環境の整備、
農業教育の高度化等への支援
＜取りまとめコメント＞

【論点1「アクティビティ①について、就農潜在層が次のステップに移行するために、どのような工夫ができるか。また、地方自治体の各種取組に繋げる方策について検討できないか。」について】

- 農業体験の体験談などを掲載してはどうか。
- 49歳以下の新規就農者を増やす事業だが、成果指標は「農業分野における生産年齢人口のうち49歳以下のシェアを全産業並みに引き上げ」とされており、2030年度の目標値は「100%」とされているが、2023年度の実績値は「21.5万人」となっている（2023年度の目標値は40万人に設定されている）。現状、実績値が目標値を大きく下回っており、目標の見直しもしくは政策手段の見直しが必要なのではないか。
- フェア参加者数や関心が高まったという反応が高いのは関係者の努力の賜である。農業に強い関心が高まっている昨今の情勢を逃さず、取組を進めていただきたい。ただし、ポータルサイトの作り込みについては工夫の余地がありそうである。そのためにも、ポータルサイトはアクセス数でみた方がよいかもしれない。
- この間のやりとりを通じて、事業による効果の実態を示すアウトカム指標の入れ替えが進められたこと、また、質の評価も進められたことを評価したい。今後、指標の一人歩きを防ぐためにも、他の指標も併せて見る、定性的項目の付記（参加自治体からのフィードバック）等、担当部局から見えているものを適切に見せるよう工夫を重ねられたい。こうした情報は今後の改善のヒントとなる。参加者の声を踏まえた情報のマッチングなど、自治体のプレゼンテーション力を高めることをまずは目指してみてもどうか。
- 就農に至るまでの道筋を農業従事者個者だけでなく、家族やパートナーと共に就農する場合等幅広いストーリーを整理して提供することも重要ではないか。

【論点2「アクティビティ②について、農業大学校卒業生の就農を増加させるには、どのような支援が効果的なのか。」について】

- 農業教育の充実のためには設備の充実が重要ではないか。
卒業生のネットワークを充実させて、年次を超えたつながりを作ってはどうか。
また、それをわかりやすくアピールしてはどうか。

- 農業大学校をさらに魅力あるものとしていくためにもさらなる設備投資が必要である。若い担い手に農業に魅力を感じていただくためにも、農業大学校の設備投資は重要な手段となるはずである。
- 農業大学校卒業生の就農を増やすという短期的な成果ばかりではなく、より大きな視野をもって、農業の周囲の産業に関わり続けるという目標設定も併せて行ってもよいのではないか。

【その他】

- こうした優れた取組みは省全体にも共有されたい。